



校長通信

令和6年度17号 令和7年2月21日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

《1・2年生の学年末テスト スタート》

2月19日から3日間の日程で、1・2年生の学年末テストが始まりました。日頃の学習の成果が発揮できていることを願っています。答案返却の際は、間違えたところを中心に、しっかり見直しましょう！

《財務省職員の方に授業していただきました》

2月14日、本校に財務省の職員の方が来られ、社会科の一貫として3年生を対象に、授業をしていただきました。より良い未来実現のために、今できることを考える学習です。授業では、まず2050年、今から25年後の和歌山市に行くと想定し、「こうなっていたので嬉しい」、「こうなっているので困っている」ということを想像しました。そして、「嬉しいこと」は、25年後、実際にそうなっているように。「困っていること」は、それを回避するために。2050年の未来人として、2025年（現在）の人々に送るメッセージを考えました。

「嬉しいこと」では科学が発達して、社会が便利になっていること、「困っていること」では、今でも問題になっている「少子高齢化」「地球温暖化」「ゴミ問題」などが更に深刻になっていることを想像し、解決策をグループで議論し、発表していました。

今回の授業を通して、3年生の生徒たちが、自分たちが中心になって、積極的に、よりよい社会を築いていこうという意識が芽生えてくれたら嬉しく思います。

《戸川定昭がよりよい未来のために実践していること》

私が未来のために実践していることをここで紹介します。25年後、和歌山県の人口は3分の2に減少し、少子高齢化が益々進んでいくようです。この状況を打破するには、元気なバリバリ働ける老人を増やすことだと思います。因みに、25年後、私は85歳になっていますが、85歳になっても健康で元気にバリバリ働きたいと思っています。毎朝、5キロのランニング、週1～2回の剣道の稽古、英語の勉強、山登り、エレベーターを使わず階段を使う、などなど、頭と身体を鍛えて、85歳でもバリバリ働けるおじいさんをめざします。エレベーターを使わないことで、日常生活で足腰を鍛えながら、節電にもなり一石二鳥です。他に、地球温暖化防止のため、校長室では来客が来た時以外は、冷暖房をつけません。更に、地球環境のために、常にエコバッグ、マイ箸を持参して余計なゴミを出さないよう心がけています。

一人の力は小さいけれど、多くの人々がそれぞれ自分ができることを実践すれば大きな力になると思います。各ご家庭でも、よりよい未来実現のためにできることを子供たちとお話しされたいかがででしょうか。